

令和5年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:8月2日(水)

会場:酒屋コミュニティセンター

参加者数:30人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>国道54号の堤防設置について、船所の三軒屋川では、バックウォーターが生じて、水が溜まる。3年ぐらい前、国土交通省から、工事するのは難しいという話であった。現在、バックウォーターの対策はどうなっているか。</p>	<p>現在、ローソン前の国道54号が冠水することから、堤防を作るように計画していただいている。国道54号は、緊急輸送道路に指定されており、万が一災害があった時には、物資の供給等の物流のための路線として活用される。しかし、土師ダムが放水するなどの影響により、河川が増水をするので、冠水してしまう状況であり、国土交通省において予算計上して、改善していただくようになっている。その具体的な時期については、まだ明確には申し上げられないが、河川工事も併せて実施予定である。バックウォーター対策も検討されているが、再度、国土交通省と協議するとともに、引き続き、地域の皆さんが、より安心していただくように、具体的な計画ができれば、説明会を実施していただくなど、しっかりと要請をしていきたい。</p>	
<p>高齢者から子どもまで、行政に頼ることなく、地域の安全は地域で守っていくということで、酒屋まちづくりビジョンを策定した。酒河小学校のPTA会長、十日市小学校の酒屋の代表の方、民生委員・児童委員、学識経験者等の23名の構成からなる関係者が集まり、約1年をかけて討議した。キャッチフレーズ『住みたくなるまち・住み続けたいまち～酒屋で咲かそう ちいき愛・ふれ愛・たすけ愛のはな～』をもとに、地域への関わり・住民同士の関わり・安全安心への関わりという3つの柱を掲げて、コロナ禍で制限もあるが活動してきた。討議を重ねるうちに、様々な課題も見えてきた。自治会に加入している人だけでまちづくりをすることは不可能であり、加入していない人にも取組をしてほしいが、解決策はない。まちづくりビジョンを策定したことによって、まちづくりができるものではないことから、今後、継続して活動を実施していきたい。</p>	<p>自治会への加入は、特に市街地において大きな課題であると認識しており、行政としては、住民自治組織と連携して取り組んでいく。コロナ禍の影響で、人の交流が減ったことも、自治会や常会の加入離れに拍車をかけており、人のつながりが希薄化している状況もある。そういったところも含めて、コロナ禍の前の状況に戻すことを、今年度は特に力を入れてやっていきたい。自治会加入のメリットとして、地域のつながりができることを発信していく。常会に入っておられない世帯は、若い世帯の傾向が高い。例えば、若い世代がよく使用するスマートフォンで視聴していただけるよう、自治会加入の動画を作成し、市の公式LINEから発信をするなど、地道な取組を積み重ねていく。その上で、住民自治組織と連携しながら、加入促進に向けた取組を一緒に行っていく必要がある。市としても、引き続き、できることをしっかりと住民自治組織と取り組んでいきたい。</p>	
<p>三次地方森林組合事務所の付近では、シカが集団で出る。また、三次中央病院の横の法面に、シカが居ついており、近くにある休耕田に八重桜を植えたが、全て被害を受けている。風土記の丘に行った際も、シカの糞が多く、子どもを連れていくことができないような状況であった。このような状況において、現在、みよし運動公園やみよしあそびの王国の遊具はきれいに整備されており、子どもを安心して行かせることができるが、シカが侵入すると、糞やダニの問題が生じる。三次のメインの観光地でもあり、対策を検討してほしい。農地については各農家が様々な対策をとっているが、施設についての対策はどうか。まだ被害が出てないと思うが、野球場にピンクテープが貼ってあり、シカが出ていると想像する。近くを児童も通学することから、被害が出る前に対策を検討していただきたい。</p>	<p>現在、三次市有害鳥獣駆除対策協議会や猟友会の皆さんと連携して、農作物の被害を少しでも軽減するための取組を行っている。猟友会では、女性や若い方が狩猟の免許を取って、鳥獣被害の軽減につながる取組も行っていただき、令和3年度と4年度を比較すると、農作物の被害は減少している状況である。地元の皆さん、猟友会の皆さんとしっかりと情報共有を密にしなが、新たな対応も検討していきたい。また、檻の入口にカメラを設置して、スマートフォンでイノシシやシカなどの捕獲状況を確認するなどのICTを活用した鳥獣対策を実施している。それが功を奏している地域もあるが、抜本的な対策につながるというところまで残念ながらできていない。民間企業も含めて、鳥獣被害対策の有効的な取組について、引き続き調査研究をしていきたい。</p>	
<p>門田地区にもシカが多い。各農家で自分の農地を守ることに限界があり、頭数が非常に多くなっているの、駆除をしっかりとしてほしい。猟友会の方に聞くと、捕獲して、申請しても、1頭あたり2,500円ほどであり、それだけではやっていけないと言われていた。例えば、銃弾代を補助するなど、市からの補助があればと思う。</p>	<p>市では、主に猟友会の皆さんにイノシシやシカを積極的に駆除していただいております。イノシシについては、令和3年度に1,753頭を捕獲し、令和4年度に3,039頭を捕獲している。シカについては、令和3年度が1,482頭、令和4年度が1,773頭ということで、皆さんに協力をいただいて、捕獲頭数が増えているところである。それ以上に頭数が増えており、被害が止まらない状況である。猟友会などの捕獲していただく皆さんへの様々な支援も、検討の一つと考えており、実際に捕獲していただいている現場の皆さんと、どのようなことをすれば、捕獲が進むのかといった意見交換をしたいと思っている。いよいよ収穫をしようかという時に、シカやイノシシに食べられることにより、農家の皆さんの生産意欲が減退するということは、いろいろな地域で聞かせていただいている。市としても、一緒になって取り組ませていただきたい。</p>	
<p>数年前、障害者の友人に、避難行動要支援者名簿について問い合わせがあり、名簿に登録することに了解の回答をしたとのことである。しかし、避難指示などの状況になった際に、誰からも何の連絡もない。この避難行動要支援者事業の進捗状況について教えてほしい。</p>	<p>市内の避難行動要支援者は2,471名であり、そのうち、名簿に登録しないという方が291名であることから、名簿登録は2,180名という状況である。そのうち、酒屋地区では43名が名簿に掲載されており、災害時等で避難が必要となる土砂警戒区域にお住まいかどうかについても、現在、市で確認ができています。しかし、市全体においては、誰が避難行動要支援者に連絡をするのか、あるいは避難行動要支援者が逃げられない場合の避難支援をどうするのかという、個別避難計画については、あまり進んでいない。実際、誰が助けに行くかというところまで踏み込もうとすると、なかなか難しい部分がある。</p>	

令和5年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:8月2日(水)

会場:酒屋コミュニティセンター

参加者数:30人

参加者の発言	市の発言	備考
学校給食について、1日約3,500食をつくり、17の小中学校へ配食すると聞いた。かなりの量である。量や時間などのリスクがあるが、食中毒が発生し、調理場が使えなくなった際に、どう対応するのか。	9月1日からの供用開始に向けて準備を進めている。食中毒に関しては、衛生安全管理基準に基づき、安全・安心な給食を提供しているが、新しい調理場においても、基準に基づいた施設であり、食材が同じ方向に流れるように調理することでリスクを低減するとともに、アレルギー食対応の部屋を設置している。また、配送についても、温かいものと冷たいものを分けており、安全・安心な給食を届けるように配慮している。万が一、食中毒が生じた際は、原因究明と合わせて、給食の提供を止めざるを得ない状況も生じてくることから、保護者の方にご協力を求めざるをえない。そうならないように、最新の施設設備で提供していくように進めている。いろいろな機会を通じて、情報提供させていただきたい。	
中学校への給食は初めてとなるが、配送が遅れて食べる時間が少なくならないように、きちんと給食時間を確保してほしい。特に、冬場は、路面が凍結するので、注意してほしい。	中学校における給食は初めてである。子どもたちは、小学校の時に給食を食べていることから、配食や配膳などは経験があると思う。しっかりと食べる時間を確保していく必要があり、そのためには、設定した時間どおりに届けることに留意していく必要があると思っている。	
みよしこども診療所が開設したが、将来を見据えて、もうひとつ小児科の病院をつくることはできないか。	将来を見据えて、引き続き、小児科医の確保や誘致、三次中央病院と民間病院の連携による医療体制の構築などについて、しっかりと検討していきたい。公的診療所ができたことから、まずは安心していただきたい。	
みよしアグリパーク整備事業について、どのような状況か。	(仮称)みよしアグリパーク整備事業については、トレッタみよし周辺の用地買収を進めているところである。用地買収を確実に終えて、皆さんに発表できる時点で、今後の状況をしっかりと説明させていただく。併せて、ワイン醸造用のブドウ園地の整備を進めており、生産拡大による持続可能な農業の発展をめざしている。地域の皆さんにも本事業へ期待をお寄せいただいている。	
重度身体障害の子どもがいる。三次中央病院の建替えに関して、現在、駐車場から玄関まで屋根がないので、雨が降ると濡れてしまう。駐車場の配置を検討する際に、ロータリーの利便性を高めてほしい。	三次中央病院の建替えについて、今、基本計画を立てている段階であり、今後、基本設計、実施設計に入っていく。基本計画の段階から、障害者を送迎する皆さんへの配慮を入れ込んで、みんなにやさしい病院づくりを進めていきたい。	
子どもに重度の障害があるため、預けることができない。長期休みの際は、社会福祉協議会が運営しているところに預けているが、土曜日は預ける場所がない。三次中央病院においてもレスパイトを進めておられるが、一床しかなく、1か月前でないと予約できないなど、利用しにくい。レスパイトについて、毎日できないことや、現場の看護師が不足していることは承知しており、三次中央病院が進めていくことがよいのか検討してほしい。三次中央病院だけでなく、民間事業所でも対応したほうがよいかもしれない。	全国の場合と同じように、三次中央病院でも、看護師が不足していることによって、医療の提供やレスパイト事業が充実した形で実施できていない。三次中央病院という選択肢だけではなく、受入れやサービスが提供できる体制の施設があれば、できる限り、その状況をしっかりと把握して、連携していきたい。検討課題として、引き続き取り組んでいく。	